

就活クエスト in OSAKA 2022 第3弾 実施報告

テ ー マ: 大阪で働くということ
実施日時: 2023(令和5)年2月25日(土)13:00~16:00
実施場所: キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階)
講 師: 池田泉州銀行 ソリューション営業部 海外ビジネスグループ 次長 齋藤 佑樹氏
エース株式会社 財務経理部 サブマネージャー 村上 麻里氏
ファシリテーター: 大阪商工会議所 人材開発部 研修・採用支援担当 上田 真也氏
参加学生数: 8 大学 12 名
(大学別) 大阪大学1名/大阪市立大学1名/追手門学院大学1名/大阪学院大学1名
大阪経済大学5名/大阪経済法科大学1名/大阪国際大学1名/相愛大学1名
(学年別) 1年生:4名/2年生:4名/3年生:3名/4年生:1名
企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 キャリア支援部会 インターンシップ推進委員会
共 催: 大阪商工会議所

1. 事業趣旨

本プログラムを通じて、バラエティに富んだ体験・成長のための表現(アウトプット)機会を提供し、学生における学修の深化および新たな学習意欲、そして低年次より自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供する。それにより、将来に対する選択肢の増幅および多角的・俯瞰的視点の獲得、自己理解に基づく主体的な職業選択や高い職業意識の涵養をはかり、ひいては自主性・独創性あるグローバル人材の育成に貢献することを目指す。また、大阪商工会議所との連携のもと、プログラムを通じて学生が大阪の産業構造を知り、府内の中小企業の魅力に触れる機会を提供する。

2. プログラム概要

| 日程 | 会場 | 内容 |
|-------------------------|------------|---|
| 2月25日(土) 13:00~16:00 | キャンパスポート大阪 | ・プログラム趣旨説明 ・企業講演「大阪で働くということ」 ・質疑応答 ・グループワーク「漢字発見ゲーム」と発表・フィードバック ・総括 ・参加証授与 |

3. 講演概要

■池田泉州銀行 齋藤 佑樹氏

銀行は一般的に知られている融資、運用以外にも HR、M&A、事業承継、海外ビジネス、ローンアレンジ、コンサルティング等様々な事業を行っている。大阪の企業は海外との繋がりが強く、自らも現在、外国為替業務やオフショア金融(取引先の海外子会社向け資金調達支援)、海外事業コンサルティング等の海外ビジネスに関わっている。今は様々なニーズに対応すべく、新しい業務を作っているというやりがいを感じている。大学2年生のときミャンマーに旅行したことをきっかけに



海外旅行に目覚め、学生時代はバイトで資金を調達しては海外を放浪していた。就活には積極的ではなかったが、思いのある企業だけ受けてみようと考え、フジテレビ、富士フイルム、池田泉州銀行の中から、地元の企業であり父親の会社を助けてくれた恩義のある池田泉州銀行を選んだ。社会人生活は厳しく、様々な人々と接する中でのストレスもあるが、意外と楽しめている。これは、学生時代に色々な国、言葉、文化、宗教そして価値観に触れ、「自分と異なるもの」を受け入れ、認めることができるようになっていたからだと思う。海外旅行でなくてもよいので、学生のうちに自分と異なる価値観に多く触れておくことを勧めたい。

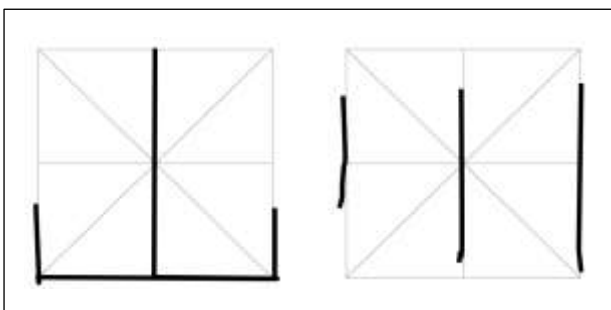
■エース株式会社 村上 麻里氏

現在、企業に所属し財務・経理を担当しながら、中小企業診断士、ワークショップデザイナーとして大阪を中心に活動している。現在のキャリアはかつて思い描いていたものではないが、楽しい毎日を送っている。高校・大学時代は校外の様々な活動に明け暮れ、いつしかそれを発信したいと思って放送業界に就職した。仕事は楽しかったが、激務で体調を崩したことをきっかけに働き方を再考し、転職を決意した。次の仕事に迷っていたとき、友人から今まで気づいていなかった自分の志向性や才能を指摘されたことをきっかけに財務・経理の仕事を選んだ。企業の経営活動を記録すること、経営のサポートが大きな業務であるが、組織上、経営に携わることができないことに物足りなさを感じるようになった。そこで中小企業診断士の資格を取得して副業不可だった会社を説得し、個人事業主として活動を開始した。活動を通して、所属先の変革の必要性に気づき、今はサブマネージャーとして内側から組織を変えるべく試行錯誤を続けている。この中で、更なるスキルアップのためにワークショップデザイナーの資格を取得し、その手法も両方の仕事に生かしている。キャリアには正解はなく、すべての経験は血肉となる。批判や失敗を恐れずに進んでほしい。



4.グループワーク(概要)

自分とは異なるものの見方を知るという観点から、「漢字発見ゲーム」を行った。図の中に隠れている様々な漢字(下図参照)を探し、グループおよび全員で共有のうえ、多角的視野を持つことや、チームで力を合わせることで、人の力を借りることの意義を探求した。



5. 当日の様子



6. 参加者アンケート
別紙のとおり

就活クエスト in OSAKA 2022 第3弾 参加者アンケート

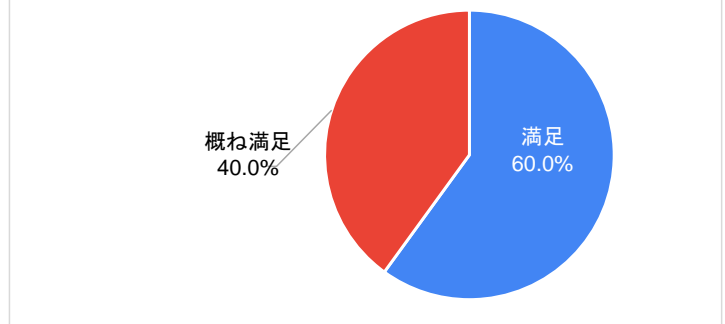
参加者数 8大学12名(回答者数10名)

1. プログラム全体の満足度

(単位:名)

| | |
|-------------|---|
| 満足 | 6 |
| 概ね満足 | 4 |
| 満足できない点があった | 0 |
| 不満 | 0 |

プログラム全体の満足度



2. 上記と回答した理由

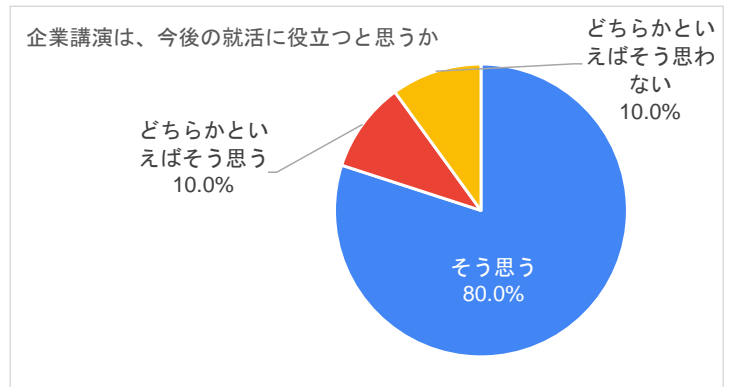
- ・大阪の企業で働く先輩方の貴重なお話を聞くことができたから。
- ・社会人の先輩方のお話がとてもよかった。参考になった。(他1名)
- ・聞きたい話など聞いてよかった。
- ・実際に働いてる人の言葉に説得力があり、仕事に対しての姿勢や楽しい所の話にどこも嘘がなく、真実なんだと思った。
- ・学生のうちに何をすべきか、就活で何を大切にすべきか等を学ぶことができた。
- ・新しいことを知ることができたり、他大学の学生と交流できたから。
- ・考えの違う人と協力することで、個人で得ることのできる結果より、よいものになるということがわかった。
- ・プログラム全体として今後に活かせることが多く、参加してよかったと思った。
- ・質疑応答は個別か最後の方でもよかったと感じた。

3. 今回の企業講演は、今後の就活に役立つと思うか

(単位:名)

| | |
|----------------|---|
| そう思う | 8 |
| どちらかといえばそう思う | 1 |
| どちらかといえばそう思わない | 1 |
| そう思わない | 0 |

企業講演は、今後の就活に役立つと思うか



4. 上記と回答した理由

【そう思う・どちらかといえばそう思う】

- ・就活や社会に出てからの大切な心構えを学ぶことができたから。
- ・就活を大阪で続ける意味を、生き方という点からもう一度考え直すきっかけになった。
- ・これからの就活において、何がしたいのかなどの軸を決めることも大事であることを知ったから。
- ・このような形でもいいんだという前向きな気持ちになれた。
- ・価値観の違いを受け入れるというのは、これから特に必要になる考えだと思ったため。
- ・価値観ということを考えることができた。
- ・お二人の講師が就活に挑むまでそれぞれ何をしてきたかが、とても分かりやすかった。
- ・自己分析よりも相手を考えるということなど、新たなことを知ることができた。
- ・質疑応答の時に自分の質問にしっかりと答えていただき、今後その答えを活かしていきたいと思ったから。

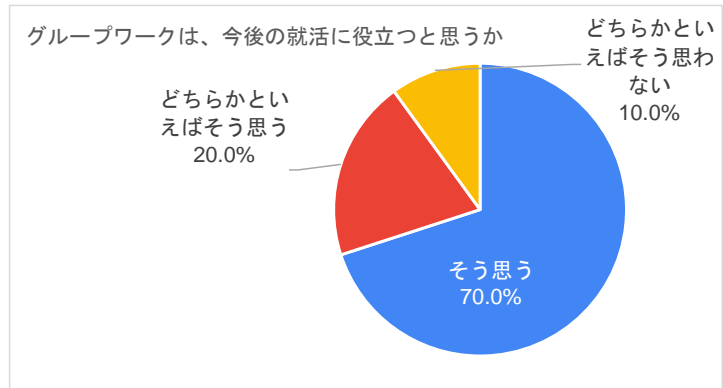
【どちらかといえばそう思わない】

- ・自分とはかけ離れていて、できないと思ったから。

5. 今回のグループワークは、今後の就活に役立つと思うか

(単位:名)

| | |
|----------------|---|
| そう思う | 7 |
| どちらかといえばそう思う | 2 |
| どちらかといえばそう思わない | 1 |
| そう思わない | 0 |



6. 上記と回答した理由

【そう思う・どちらかといえばそう思う】

- ・同じものに対して様々な見方や考え方があることを実践形式で知れ、話を聞くより実践が一番ということを再認識した。
- ・同じものを見ていても人によって全く違っているという価値観の違いを知り、今後のものの見方を改めて考えることができたから。
- ・多くの人と力を合わせると想像以上に様々な発想が生まれ、1人ではできないことができるということを改めて実感した。
- ・いろいろな人と協力することで、一人では思いつかなかった新たな解決策が見出せることを、身をもって体験できたから。
- ・初対面の人と力を合わせることは、就活においても大切だと思うから。
- ・グループワークの大切さやグループワークをする理由がわかった。
- ・就活の面接試験に生かせると思うから。
- ・「そんな漢字があったのか！」となるくらい熱中できて面白かったため。
- ・仲良くなれて、楽しかった。

【どちらかといえばそう思わない】

- ・とても楽しくて勝負事も好きなのでよかったが、就活には役立たないと思った。

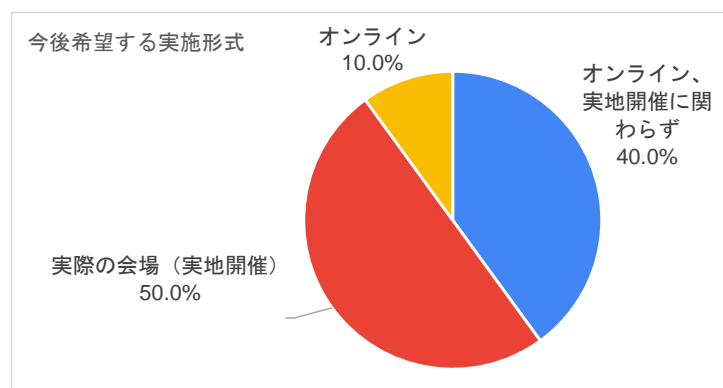
7. その他 感想や意見

- ・質疑応答の時にいろいろな人が質問していたので、質問しやすい雰囲気があり、自分も気になっていたことを聞いた。
- ・大阪だけで働いてきた方のお話だと思ったら、皆さん海外や県外でも活躍されていたということが印象的だった。大阪や日本だけに縛られずに多くの生き方を考えてもいいのかもしれないと思った。

8. 今後希望する実施形式

(単位:名)

| | |
|-----------------|---|
| オンライン、実地開催に関わらず | 4 |
| 実際の会場(実地開催) | 5 |
| オンライン | 1 |



9. 上記と回答した理由

【オンライン・実地開催に関わらず】

- ・他大学の人などと交わえる活動には参加したいから。
- ・自大学に閉じ籠っているだけでは味わえない衝撃というのは貴重な。同世代の人は、一つ未来が違えば自分がその人の立場だったかもしれないと思い、自分の「もう一つのあり得た未来」を見ているような気持ちになれるので、参加していきたい。
- ・今回のプログラムで、就活に関する学びを楽しみながら学ぶことができたから。
- ・自分のためになることが多いから。

【実際の会場(実地開催)を希望】

- ・屋外に出ることは心のリフレッシュに繋がるため。
- ・実際に行かないとグループワークを楽しめないから。
- ・人としっかり対面して話せるのは現地開催のみなので、また実際の会場で開催してほしい。
- ・実際に顔を合わせることで、濃い時間が過ごせたように思う。
- ・仲間も増え、情報も増えるから。

【オンラインを希望】

- ・交通費や時間がかからないから。

10. 今後、取り上げてほしい業界や職種

- ・地方公務員
- ・食品業界
- ・メーカー
- ・無償で活動する機会も多い仕事
- ・お金以上に大切にしているものがある業界や職種や企業